

## 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2470200938		
法人名	社会福祉法人 青山里会		
事業所名	四郷グループホーム		
所在地	三重県四日市市西日野町小溝野4014		
自己評価作成日	令和元年7月19日	評価結果市町提出日	令和2年3月23日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/24/index.php?action=kouhyou_detail_022_kihon=true&amp;Ji_gvosyoCd=2470200938-00&amp;ServiceCd=320">http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/24/index.php?action=kouhyou_detail_022_kihon=true&amp;Ji_gvosyoCd=2470200938-00&amp;ServiceCd=320</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	令和元年8月6日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

春には桜が咲く自然と中学校や高校・住宅も近くにある環境に当グループホームはあります。また、敷地内には在宅介護支援センター・デイサービス・ヘルパーステーション・サテライト特養があり、防災訓練を合同で行い連携をとる等、協力体制もあります。ケアの面では、ご利用者お一人おひとりの特徴を掴み、その方にあったケアを行うように心がけて、笑顔のある生活を送っていただけるようにしています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は大きな社会福祉法人が運営する中の1つで、四郷在宅介護支援センターとして在宅介護支援センター、デイサービス、特別養護老人施設等が同一敷地内にある。職員研修や避難訓練、運営推進会議の開催等の協力体制が出来ており、利用者・職員は安心した生活が来ている。事業所は2ユニットからなり、管理者を中心に話し合い、納得のうえ特色のある支援をしている。利用者希望のメニューを取り入れる等、して、調査当日もそれぞれ違った献立である。利用者の平均介護度が1~2で、まだまだ見守りをしながら、利用者と一緒に出来る事が多くあり、利用者本位を大事にし「待つ支援」を職員は心掛けて工夫し対応している。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「一人ひとりを尊重し、笑顔あふれる家」を理念とし、ご利用者の変化について職員同士で話し合い、情報共有するようにしている。	利用者の状況変化について話し合ったり、申し送りノートで共有したりして、理念に添った支援をしている。「座席替えをしたが上手くいかずもとに戻す等、何度も話し合い利用者の意見を聴き対応した。」など理念に立ち戻った支援をしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	歌の会を通じて、他法人の施設との交流を継続していたが、歌の会が無くなった為、今年度は地域の行事(盆踊りや文化祭等)に参加することで地域との連携が取れるよう努力が必要である。	今まで同一敷地内の事業所と交流をもつ会があったが中止となったため、今後は地域の祭りや文化祭等に積極的に参加する予定である。散歩などで出会う人とは挨拶をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	実習生等の受け入れで、認知症についての説明と理解と支援の方法を知ってもらえるようにしている。また、地域の勉強会の場に参加した際に、当施設についての説明をしたりしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	当施設の近況報告や行事、事故報告や取り組みを報告し、会議の参加の方々から頂いたご指摘に対して改善するように努力している。	同一敷地内の他の事業所と同時開催をしていたが、6回のうち3回のみは単独開催時間を設けて、状況報告を行い意見をもらっている。家族参加がないので、3回だけでも参加してもらうように働き掛ける予定である。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	直接のやり取りする関係性はないが、運営推進会議の場を活用することを継続している。また、緊急の情報や研修の案内も継続していただいている。	運営推進会議には市関係者の参加があるので、連絡・相談はその時にしている。重要事項等は本部を通じておこなっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人としての研修や四郷施設内の研修の伝達研修や身体拘束の委員会、月に一回の当施設のミーティング時に身体拘束とはどのようなものかの確認や身体拘束について考え、身体拘束をしないよう取り組んでいる。	四郷在宅介護サービス内の事業所研修(身体拘束をしない等)にはグループホームより2名が参加し、職員への伝達研修を実施している。身体拘束委員会も開催している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人としての研修や四郷施設内の研修の伝達研修や虐待防止委員会の会議、月に一回の当施設のミーティング時に虐待行為を行っていないかの確認をし、注意と防止に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護を利用しているご利用者がみえる事から、制度を知る機会を得られている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所前の訪問時や入所時の契約書をご記入いただく際に管理者が説明し、疑問や不安に思うことに答えるようにし、後日でも説明させていただくので遠慮なく話していただくようお願いしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関にご意見をご記入いただく用紙を用意している。また、お電話いただいた時や面会時にいただいたご意見に対して、ミーティングなどで職員と話し合い、改善すように努めている。	家族の面会時に状況報告をしたり、電話で連絡を取ることもある。なかなか意見が出にくいので「日誌」を見てもらう事や「事業所だより」の発行等で、家族意見の把握に努めるようにする。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	申し送り時やミーティング等で職員からの意見や提案を聞くようにし、管理者から本部事務所の関係部署に報告・相談するようにしている。	管理者は毎月のミーティングの時や、日常的にはその都度聴いたりしており、「クーラーの清掃記録」の提案にはすぐに話し合って反映した。事業所内で解決できない場合は本部まで報告、相談している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人内の他のグループホームとの運営推進会議の場で代表者と管理者が直接話が出る為、職員の現状を報告・相談している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修は報告書の提出での把握。研修の受講者の決定は管理者の推薦や職種の部門長の推薦や命令となっており、職員に必要な研修を受講できるようになっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	四日市市の北勢ブロックの会議や研修に出席することで、同業者との交流の機会となっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前の訪問調査時にご本人の思いや状況を把握するようにし、職員には入所前にケース記録を読み情報共有するように努めている。そして、入所されたら笑顔で接し、不安の解消を心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前の施設見学にみえた時や訪問調査時に一方的な説明や質問をせずに、施設に対し気になる事やご質問・疑問がないかも含め、傾聴しながら安心して話をしていただける雰囲気となるよう心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族との話やご希望から、必要なサービスが外部サービスとなる時は説明や提案をし、必要なら業者に連絡を取ったりしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者にとって職員はもう一人の家族として、時には友人として接し、一緒に家事などを行いながら信頼関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご利用者の体調や身体状況の変化に気づいたらご家族にご報告し、今後のケアについて、ご家族と相談しながら一緒にご利用者を支える協力関係を築くように心掛けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人やご近所の方の面会を歓迎し、今後の来所もお願いしている。	友人等の面会が減ってきているが、継続してもらえる環境づくりをしている。以前からのかかりつけ医への通院の際に知人に会う事もあったり、日常的に昔話を取り入れたりして工夫している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者がご利用者を手助けしている姿を職員は見守り、必要な時は職員がケアの手助けをして、ご利用者同士助けあいのある穏やかな生活を送ってもらえるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された後もご連絡、ご相談があると応じている。また、入所された施設に伺ったり、入所された施設の職員からその方の状況を聞き、その方のその後の状況の把握するように努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所されるまでの生活や習慣の把握に努め、当施設でも継続出来るように職員間だけでなく、ご家族とも相談して居室内の環境を整える等、ご本人のご希望に添えるように努力している。	なかなか思いを言えない利用者もあるが、テレビや本を見ている時に何気ない会話の中から思いを把握している。入浴時のゆっくりした時間や、利用者同士の会話の中から把握する事もある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時にご家族からご利用者の生活歴や習慣を聞くようにしている。また、担当ケアマネジャーやご利用施設の職員からも情報を収集するようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご利用者の体調や生活の様子は個人記録に記入しており、毎朝、出勤した職員は業務に入る前に記録を読み、ご利用者の状態の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプランの作成時にご利用者の希望・ご家族の意向を聞き、計画作成者以外の職員の情報や意見を聞きながら、ご利用者本位のケアプランになるようにしている。	ケアマネジャーは計画書の原案を作成し、利用者・家族の意見を聴きケア会議にて検討している。モニタリング、評価も話し合いで行っている。日誌の裏面に計画書を添付して、全員で日々確認し実践している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活の中で気になったことや気づきを個人記録に記入し、対応に必要な対応・ケアの工夫や改善をミーティングや日常の中で職員で話し合い、試しながら、ケアプランの見直しに活かすようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	急に体調を崩したご利用者の受診の対応や必要物品の購入の代行を行ったり、他のサービスの利用の提案をしたりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	同敷地内の施設で開催される催し物に参加させてもらい、楽しんでみえる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前からのかかりつけ医に入所後も継続してご家族と受診してもらっている。ご家族の了承が得られた時は直接かかりつけ医と話をし、症状にあった治療をうけていただけるように努めている。	以前からのかかりつけ医に家族の介助で受診している。家族が出来ない時や緊急時には職員で支援している。通院時には「健康チェック表」を持参してもらい医師との連携はとれている。受診後の連絡ももらっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	同敷地内にあるサテライト特養やデイサービスの看護師に、ご利用者の症状の相談や急変時の対応や指示を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された時は、ご家族や入院先の病院の関係者と連絡を取り合い、関係づくりに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人とご家族の意向を確認し、可能な限り当施設で過ごしていただける間は過ごしていただくもの、ご本人の症状の進行も考慮して、介護施設への入所や入院等の方法・選択肢も説明している。	事業所としては医療行為が必要になると入院をしてもらったり、事業所での生活が無理になれば介護施設を紹介したりすることを入居時から説明をし、理解をもらっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	同敷地内の四郷での研修会で学んでいる。また、対応や手当の仕方等で疑問がある時はサテライト特養やデイサービスの看護師に相談や確認を行う。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	同敷地内の施設との連携の確認も含め、避難訓練や通報訓練を行っている。	避難訓練は、同一敷地内の他の事業所と連携して実施しており、自治会との協力体制もお願いしている。備蓄などの準備も出来ているが、近くに土砂くずれ危険箇所があり注意している。	災害はいつ発生するか解らない事からも、職員全員がどんな時でも安全に利用者を避難出来る方法を身につけるよう訓練をお願いする。毎日の自分の役割を確認し、非常時に備える事を期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者は人生の先輩として尊重し、敬意を持って声掛けし、対応するようにしている。	理念の内容として「一人ひとりを尊重し笑顔あふれる家」を職員で共有し実践にあたっては。特に、排泄・入浴時には言葉かけや対応に配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	その人らしく過ごしていただく為にも、希望が言いやすい雰囲気になるようご利用者に寄り添い思いをくみ取るように努力している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	行事や催し物、日々のレクリエーションにお誘いはするが、ご本人の意思を尊重し、好きなように過ごしてもらっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自分で出来ない方には職員が整容を気にかけて、服が汚れていたりした時は着替えていただくように声掛けをしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者の食べたい献立を聞いて買い物をしてきたり、好き嫌いのある方には別の食材を提供して対応している。	職員が、献立・買い物・調理をしており、出来る利用者が、盛り付け・配膳・お茶出し等職員と一緒にしている。利用者の希望の献立を取り入れているので、ユニット毎の献立である。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入浴後や外気浴中にポカリスエットやジュース、お茶を飲用してもらっている。また、食事摂取量が少ない方や一時的に少ない時、減ってきた時は、好きな物を食べてもらったり、栄養補助食品を食べてもらったりしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後には歯磨きやうがいを勧める声かけをし、その方に応じて見守りや一部介助を行っている。また、義歯の方には就寝前に洗浄剤を使用しての洗浄の声替えや介助を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	身体機能が低下してきても安易に紙パンツや尿取りパット、紙おむつ対応しないよう、職員で話し合っている。	布パンツの利用者が半分くらいで見守り支援であり、残りの利用者はパットの利用であるが習慣と時間で誘導している。自立の継続を工夫と支援で続けている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防の為、乳酸菌飲料を飲用していただいたり、野菜の多い献立にしている。また、ラジオ体操やリハビリ体操なども取り入れている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の順番が気になる方には順番の相談・確認をしている。また、入浴を好まれない方には声掛けを工夫したり、翌日の入浴に変更したりしている。	毎日入浴支援をしているが、おおむね週3回入浴している。入浴の順番が気になる利用者には納得のいくまで話して理解して入浴してもらっている。浴槽は埋め込み式で、手すりと段差で安全に入浴出来る。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間を決めていて、眠くなったら眠る方と自由にしてもらっている。また、エアコンの温度も個人の快適温度にするようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋は個人ファイルに綴じ、いつでも確認できるようにしている。また、処方の変更業務日誌や連絡帳に記入し、申し送りをして職員の把握に努めている。服用時の体調の変化にも注意を払っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物干し、洗濯たたみ、ゴミ捨て、料理の盛り付け等個々に合った役割を持ってもらっている。また、季節の作品作り、パズル等余暇活動も個々に望まれたものを行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	玄関先での外気浴や散歩をしている。	玄関の前が広い駐車場になっており、外気浴や散歩をしている。買い物や公園や季節の花見に出掛けることなど、外出の機会を増やす検討をしている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理は当施設では行っていない。ご家族と相談してご本人管理で持ってもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の要求があれば、かけてもらっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じた作品をご利用者と作り、飾って季節感を出すようにしたり、室内の温度に気を付けている。	玄関を入れて事務所を通じて左右に2ユニットがある。共用空間はテレビを中心に利用者は腰かけ、思い思いに過している。壁面にはひまわりの花の共同制作が飾られている。熱中症に気をつけ、温度・湿度・水分補給に気をつけている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室で一人ゆったりとテレビを見て過ごされる方、リビングのソファでご利用者同士で話に花をさかせている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご利用者やご家族の希望があれば、家具や家電製品等を持ち込めるようになっている。また、昔使用されていた家具を持ってきてもらい、安心して過ごしてもらえる空間作りに努めている。	各居室扉の横には季節の絵のてぬぐいがそれぞれ飾ってある。洗面台・ベットが備品で、他にテレビ、小さい整理タンスや衣装ケースなどが置かれ整理整頓がしてある。居室の温度も居心地よくしてある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや浴室、居室は分かりやすい掲示に努めている。		